

# 2024 年度事業報告

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

## 1. 会員状況

2025 年 4 月 1 日現在、正会員 A 265 社、正会員 B 193 社、正会員 C 4,109 社 計 4,567 社となっている。

## 2. 事業報告

### (1) 会員活動

#### a. 会員交流 (★:2024 年度新設)

2024 年度もそれぞれの活動の充実、活性化を図り、推進した。

##### (a) フォーラム

合計 361 名の方にメンバーとして登録いただき、引き続き下記のフォーラムを開催した。  
2024 年度は、対面開催を中心に実施した。

- ・CIO エグゼクティブフォーラム(1 グループ)
- ・IT 企業トップフォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT 部門経営フォーラム(東京 5 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社経営フォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社人材育成フォーラム(1 グループ)

##### (b) 研究会

2024年度は、新たに立ち上げた「女性ビジネスリーダー研究会」を含めた、下記16 の研究会を設け、542名の方々が参加、活動した。

5 月末からスタートし、会場、オンライン、ハイブリッドと、状況に応じた多様な方法で開催した。12 研究会については、合宿を 9 月・10 月・11 月の 3 回に分けて実施した。

2024 年度研究会の成果報告は、2025 年 4 月 10 日より、『JUAS web channel』にて各研究会の報告動画を一齐公開する形で実施している。(研究会、研究プロジェクト、アドバンスト研究会、PARK2.0 成果を公開、一部を除いて 1 年間掲載予定)

<https://www.youtube.com/@JUASwebchannel>

- ・ビジネスデータ研究会
- ・IT インフラ研究会
- ・サービスマネジメント研究会
- ・企業リスクマネジメント研究会
- ・IT 投資ポートフォリオ研究会
- ・組織力強化研究会
- ・システム開発・保守 QCDs 研究会
- ・AI 研究会
- ・デジタル変革リーダー自己育成研究会
- ・トランスフォーメーション(X)研究会
- ・人材育成事例(HRCS:Human Resource Case Study)研究会
- ・製造業 DX 推進アプローチ研究会
- ・デジタルマーケティング研究会
- ・ビジネスリレーションシップ研究会
- ・新規事業創出研究会(旧組織内起業家研究会)
- ・女性ビジネスリーダー研究会 ★

### (c) 研究プロジェクト

2024 年度も下記の研究プロジェクトを継続して実施した。

成果報告については、研究会と同様に『JUAS web channel』にて報告している。

- ・基幹系システムアジャイル適用研究プロジェクト

### (d) 未来ビジネスフォーラム

各社のデジタル化への対応について、様々な立場の方(CIO 経験者をはじめとした有識者)の参加を得て情報交換を進めている。2023 年度は 2 グループ、合計 23 名が参加して活動した。

### (e) アドバンスド研究会

個別グループでの設立申請を受け、審査を経て活動を実施する。

2024 年度は下記4つの研究会を実施した。成果報告については、研究会と同様に『JUAS web channel』にて報告している。

- ・情報共有研究会
- ・データエクスペリエンス研究会 – Data and beyond –
- ・企業の成長戦略と DX 投資研究会
- ・システム高度化研究会 ★
- ・哲学×ビジネス研究会 ★

### (f) 情報セキュリティ WG

情報セキュリティに関する課題とその解決方法の共有を目的に、情報セキュリティをマネジメントする立場から、事例紹介・意見交換等を実施している。

2024 年度は、マネジメント WG、ソリューション WG、2 つのグループで実施、それぞれ 22 名、21 名、合計 43 名の参加を得て、6 月より会場開催とオンライン開催を交えて実施、年度末に成果報告書を取りまとめた。

### (g) 関西

前述の IT 企業トップフォーラム関西、IT 部門経営フォーラム関西、IT グループ会社経営フォーラム関西のほか、2021 年度から、PARK(The place of advanced relationship in Kansai)をリニューアルし、ミドルマネジメントの情報交換、交流に留まらず、ミドルマネジメントの視点から共通する課題についてより踏み込んで議論し、その成果を発信することを目的に、「PARK 2.0」として活動している。

2024 年度は 24 名が参加し、集合開催を主として活動し、9 月に合宿も実施した(研究会合宿と同日・同会場で実施)。成果は、研究会と同様に『JUAS web channel』で報告している。

### (h) JUAS アカデミー

IT に関する最新技術、関連施策に加え、業界や市場の動き、海外動向、経営に適用し得る考え方等の時宜に即したテーマを選び、単発の会員限定の勉強会として開催している。

2024 年度は、IT 部門経営フォーラム、研究会主催 JUAS アカデミーを含む、様々なテーマについて、オンライン形式で録画配信も含め 19 本開催した。

## **b. 個人情報保護など情報管理基盤の整備と制度運用事業**

### **(a) 「認定個人情報保護団体」活動**

2018 年 9 月 12 日に認定保護団体として活動を開始し、2024 年度も前年度に引き続き、C 会員を中心に登録を受付し、苦情相談等を実施している。

2025 年 3 月時点で、登録事業者は 988 社となっている。苦情対応件数は 9 件であった。

### **(b) プライバシーマーク審査事業**

会員企業を対象にプライバシーマークの審査、付与等を実施している。

2024 年度のプライバシーマーク取得を希望する【申請件数】は、2,135 件であった。

【審査件数】は、最終的には 2,150 件で、これまでの最多件数となった。

定常的な申請・審査件数が今後も見込まれる一方、現状の審査員の高齢化により審査可能件数の減少が想定されるため、新規審査員募集の継続、審査員育成の仕組みの強化、審査員グループリーダー制の充足に取り組んだ。

審査業務基盤整備を目指した「プライバシーマーク審査業務刷新に向けた業務改革・IT 化構想」については、申請事業者(会員企業)と JUAS 間の情報授受の電子化である第 1 ステップを昨年度より稼働し、申請事業者の負担軽減を実現し、加えて審査員の働き方改革とスタッフの業務効率化が進んだ。

現在、JUAS セキュリティセンター内審査管理業務の刷新(入会～申請～審査～付与までの工程の効率化)を目指した第2ステップを推進している。2024 度中に第 2 ステップを稼働させる目標であったが、2025 年度内の稼働となる見込みとなっている。

会員向けサービスとしては、オンラインでのプライバシーマークカンファレンスを 11 月に開催した。基調講演で中央大学総合政策学部教授 宮下紘氏に「個人情報保護法の現在地」として、法改正の経緯や個人情報とプライバシーの違い、過去に起きた個人情報にまつわる事故や事例を紹介いただいた。一般講演では「JIPDEC に訊く『構築・運用指針(改訂版) どこが変わった？何をすればいい？』」として、事業者様視点で JIPDEC と JUAS 審査員が対談する形で改訂内容を解説し、前年の 1.6 倍の視聴回数を得ることができた。加えて、プライバシーマークに係る PMS の構築相談等の各種会員サービスも継続して実施している。

## (2) 教育研修事業

### a. オープンセミナー

2024 年度も、オンラインセミナー(ライブ)、会場開催セミナー、ハイブリッド形式、という 3 つの形式でセミナーを開催した。加えて、今年度から動画セミナーにも力を入れ、9 種 21 本を配信した。

年間では動画セミナーもあわせ 256 本のセミナーを開催した。(2023 年度年間開催数は 245 本) 受講者数は、2023 年度に比べると増加したが、1 開催あたりの参加者数は減っている。

IT 入門者向け講座(情報システム概論、IT 基礎、情報システムの設計基礎、プロジェクトマネジメント等)への受講者数は多く、また生成 AI の活用をはじめとした最新技術動向への関心が高い。加えて、生産管理、在庫管理、経理業務等の業務知識を学ぶ講座も関心が高い。

2024 年度より、受講権利一括購入制度(回数券)を電子化し、利便性を向上させたことにより、本制度を利用しての参加率が高まっている。

<オープンセミナー開催実績>2025 年 3 月 31 日時点

|      | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 | 2024 年度 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 開催数  | 294 本   | 175 本   | 210 本   | 235 本   | 245 本   | 256 本   |
| 受講者数 | 4,077 名 | 1,691 名 | 2,533 名 | 2,937 名 | 3,479 名 | 3,503 名 |

### b. コース型研修 (★:2024 年度新設)

複数日の開催で、情報交換や他流試合が可能なコース型研修として、中堅層を対象に以下のコースをオンラインで開催した。

#### (a) 変革リーダーシップ勉強会

徹底的に考え、想像力を働かせ自分なりの答えを導き出し、自信をもってそれを実行に移すことができる変革リーダーの養成を目指すコース。2023 年度より開催。第一線で活躍する CIO、CHRO、起業家の講義研修、滋賀県高島市の「ホンモノの地域課題」に取り組む 2 泊 3 日の宿泊研修、コーディネーターとの 1on1 ミーティングで構成し、6 月より開始し、20 名の受講生が参加した。

#### (b) グループコーチング

約 2 か月間の毎週 1 時間のオンラインで集まり、毎週、参加者各自の目標を立て、それに対し結果を振り返るとともに、お互いの気づきを共有する。1 グループ 4 名には JUAS 会員企業の女性管理職がファシリテーターとして加わり、他者の視点も取れ入れながら内省することで、視座や実行力を高めることを目指している。週次のグループコーチングのほか、実際に IT 分野で活躍している女性リーダーとの意見交換会を設けており、研鑽を図っている。2024 年度は 11 月に第 6 期として開催し、16 名の参加があった。

#### (c) JUAS カフェ

実際に活躍しているビジネスパーソンをカフェマスターとして招き、講義、対話による多面的思考、積極的な意見交換による人脈ネットワーク構築を目的として、計 3 回コースを 11 月に会場にて開催した。2024 年度のテーマは「チームリーダーに必要なスキル」とし、第 1 回はワークショップ、第 2 回、第 3 回はカフェマスターを招き、第 1 回の体験を活かしながら、意見交換を行った。

#### (d) 情報システム部門のための IT アーキテクト養成講座 ★

複雑化した社内システムの全体像を可視化し、企業目的を最適に実現する IT の適用の姿を構想し、その構築のステップを策定するアーキテクトを養成するためのコースとして、4 日間にわたり本年 7 月に第 1 期を開催(20 名参加)、11 月に第 2 期を開催した(19 名参加)。

#### c. 新人・配転者向けプログラム

2024 年度の新人・配転者向けプログラムは、IT の基礎を学ぶ基本コースを 6 月下旬より 19 日間、プログラミングの基礎を学ぶ実機演習コースを 7 月下旬より 19 日間で開催した。

基本コースは、リピーター企業からの申込が多くあったため、昨年度に引き続き 2 クラス同時開催とし、19 社 62 名と過去最多の受講人数となった。対面の演習が必要な講座は会場開催、PC での作業が多い講座はオンライン開催としたが、昨年度より会場開催の講座を増やし、受講者同士のコミュニケーションをより深める機会を設けた。また、事前オリエンテーションの実施、提出物のシステム化等、受講者や窓口担当者の安心感や利便性を高めることにも注力した。

実機演習コースは、6 社 12 名の受講となった。補助の講師を複数入れ、受講者一人ひとりの理解度が高くなるよう講義や演習を行った。また、体調不良や台風などの不測の事態に対応するため、在宅受講が出来るよう PC の貸出を行い、補助講師がマンツーマンで講義のフォローをするなど、状況による学習の遅れが無いよう配慮した。

また、秋に基本コースと同内容のオープンセミナーの講座を 10 日間で受講できる速習コースも開催し、好評であった。

#### d. 教育研修の受託・講師の派遣（企業内研修）

企業の要望に応じて研修を提案し講師を派遣する企業内研修は、リピーター企業からの依頼が中心となった。昨年度に引き続きオンライン開催が主体であるが、会場開催が増えてきている。聴講型講義だけでなく、演習中心とした講座が人気となっている。内容としては、ボトムアップを目的とした「プロジェクトマネジメント強化」「文章力強化」「ロジカルシンキング」といった定番コースが中心である。

2024 年度は 26 件を開催した。

#### e. 普及出版

出版物は、現在約 6 種類を配布・販売している。毎年発行している「企業 IT 動向調査」は、2020 年度より、JUASWEB サイトでも全文公開している。

#### f. ミニ研修（JUAS ラボ）

実験的なテーマについて、ミニ研修として紹介する「ラボ」を開催している。  
2024 年度は、7 本のラボを開催した。

### (3) 普及推進事業

#### a. JUAS スクエア 2024

ユーザーカンファレンス「JUAS スクエア 2024」を9月4日(水)、5日(木)の2日間、ハイアットリージェンシー東京にて開催した。25回目となる今回は「自ら描く新しい世界へ～あなたの歩みが未来をつむぐ～」をテーマに39セッションを実施し、1,082名の事前登録に加え、2日間のべ来場者1,372名と多くの方に来場いただいた。

基調講演、特別講演に始まり、JUAS 会員の IT 部門長やグループ会社役員より、先進事例を紹介するフォーラムセッション、協賛企業によるコンサルティングセッションやランチョンセッション、テーマに即した事例を紹介するスクエアセッション、研究成果を紹介するクローズアップセッション、そして2日間を締めくくる総括パネルと、多彩な内容を展開した。イベント全般に対するアンケートの総合評価も好評であった。

また、開催翌週から9月末までアーカイブ配信も実施し、当日都合が合わなかった参加者にも情報やメッセージを届けた。

基調講演・スペシャルセッションの内容は以下の通りである(所属、役職等のご登壇当時)。

- 基調講演(9/4)「ベンチャー精神とやりくり経営による価値創造の展開」  
井上 慎一 氏 全日本空輸株式会社 代表取締役社長
- 基調講演(9/5)「新しい1歩を踏み出そう！」  
守屋 実 氏 新規事業家
- 総括パネル(9/5) 「自ら描く新しい世界へ ～あなたの歩みが未来をつむぐ～」  
数見 篤 氏 トラスコ中山株式会社 取締役 経営管理本部長 兼 デジタル戦略本部長  
兼 オレンジブック本部長 / 名古屋大学 客員准教授  
玉置 肇 氏 パナソニック ホールディングス株式会社 執行役員 グループ CIO  
パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社 代表取締役社長  
船生 幸宏 氏 横河電機株式会社 執行役常務(CIO)デジタル戦略本部長  
モデレーター:  
中島 昭能 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事

#### b. イノベーション経営カレッジ

「企業と人の心を変革するイノベーション」を実現する人材を輩出・支援する場である、イノベーション経営カレッジを今年度も実施した。

IMCJ2.0 プログラムは、2024 年度(22 期)を、10 月～12 月にかけて軽井沢プリンスホテルウエストで開催、18 社 19 名が修了した。2 週間にわたり、17 名の CIO、CDO、有識者に講演いただき、気づき・考え方を共有し、今後の自身の変革プランを検討、発表し、今後につなげていく。

IMCJ2.0 の修了生は 2024 年度で 360 名となった。

また、2024 年 5 月に、5 年ぶりの同窓会を開催、60 名が参加した。メンバーの IMCJ 修了後のキャリアや取り組み等をテーマにパネルディスカッションを実施し、交流会で期をまたいだつながりを深めた。

2018 年度より開催している、事業創造のための協創の場「Challenge Camp」についても、2024 年 10 月より第6期 11 名が参加し、終了生は今年度で120名となった。昨年度から実施している実企業の課題にフォーカスしたビジネス創造に今年度もチャレンジし、報告会で発表を行った。

## (4) 調査研究事業

### a. 教育訓練パッケージ開発

※厚生労働省受託事業

厚生労働省の「受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業」に応募、採択され、2023 年度 10 月～2025 年 3 月の 1 年半で、「企業内の DX 推進の中核人材を担う女性リーダー育成」の教育訓練パッケージを開発、プログラム施行等を実施した。

本教育訓練パッケージを開発することで、今、企業において求められている人材であるが、まだ新しい立場と言える「企業内 DX 推進の中核人材」となれる女性を育成することで、企業内において管理職やリーダーとして活躍できる女性を増やし、企業内の女性活躍を推進するとともに、企業における DX の推進に寄与することを目指した。

「DX 推進スキル標準」の「ビジネスアーキテクト」を基に人材像を設定し、加えて企業内における女性を支援する仕組みを構築することで、女性リーダー層を育成する教育訓練パッケージを目指し、プログラム検討委員会のもと、開発した。

2 年目となった 2024 年度は、集合研修約 38 時間、事前動画視聴約 10 時間、事前課題約 10 時間、上長も含めた講演会で構成される教育訓練パッケージの全日程の施行を実施し、26 名が参加した(9月に終了)。

### b. ソフトウェア・メトリクス調査

ソフトウェア開発プロジェクトの各種データを収集し、分析して「メトリクス(基準値)」を出していく「ソフトウェア・メトリクス調査」は、2020 年から、ソフトウェア開発環境の変化やコロナ禍の影響等を考慮し、調査を中断していたが、要望の声を定期的にいただいていたため、2024 年度、会員企業に利用状況アンケートを実施した。結果として、利用頻度の高い上位指標に絞り込んで、下期に調査を再開し、活用事例と併せたガイドブックを発行した。

## (5) 企業 IT 動向調査

1994 年から「企業 IT 動向調査」を毎年実施しており、今年で 31 年目となる。企業の IT 投資、IT 導入状況、IT 活用の実態、組織・体制等、経年的な動向とトレンドについて俯瞰的に調査するとともに、ユーザー企業における重要課題を「重点テーマ」と位置づけ、様々な角度から深く掘り下げ、解決に向けた指針を提言することを目指している。

実施にあたっては、調査委員会・調査部会を組成し、テーマ選定、調査内容の企画、分析、報告書執筆を行った。

調査方法は、経年変化を中心に動向の把握を目的としたアンケート調査と、取り組みを深堀するインタビュー調査を併用した。

本年度は、「今こそ問われる IT 部門の真価と進化」を重点テーマに取り上げた。

アンケート調査は、9 月～10 月に、東証上場企業とそれに準じる企業の計 4,500 社の、事業会社またはホールディングス企業の IT 部門長対象に、WEB によるアンケートの回答を依頼し、回答数は 981 社(有効回答率:21.8%)となった。

昨年度から継続して、調査部会のメンバーとして大学教授2名の参画を得て、調査分析の深堀を実施している。より深い分析ができるよう、大学研究室の学生の力も借りながら模索している。研究成果は JUAS の WEB サイトで公開しているほか、JUAS スクエア 2024 での講演も実施した。

※本事業は 2012 年度より公益目的支出計画の実施事業として行っている。

以上